

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成19年12月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2870801236		
法人名	社会福祉法人 明進會		
事業所名	たるみグループホーム		
所在地	(〒 655-0892) 兵庫県神戸市垂水区平磯4丁目5-13 電話 078-707-5888		
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	平成19年12月29日

【情報提供票より】 [平成19年10月1日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	3ユニット (利用定員…計27人)		
職員数	30人	(常勤17人) (非常勤13人)	/ 常勤換算24.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	地上5階建て建物の3階～5階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	南側50,000円・北側45,000円	その他の経費(月額)	30,000円
敷金の有・無	有り (300,000円) ・ 無し		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (円) 無し	(保証金有りの 場合)保証金 償却の有・無	有り ・ 無し
食材料費	朝食	300円	昼食 400円
	夕食	600円	おやつ 200円

(4) 利用者の概要 (平成19年10月1日 現在)

利用者人数	計27名 … (男性3名) (女性24名)		
要介護1	7名	要介護2	10名
要介護3	7名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均85歳 … (最低74歳) (最高97歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神戸掖済会病院 沖繩徳洲会 神戸徳洲会病院 武村内科 杉本歯科クリニック やまぐちクリニック
---------	---

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR・山陽電鉄「垂水」駅の南側すぐ(「海(かい)神社」の東隣)にあり、家族の訪問に便利。商店街なども、生活リハビリ(買物)として、ホームから丁度良い距離にある。建物の2階にはディサービス事業所を併設。屋上は、庭園・家庭菜園などとして利用され、建物内でも散歩や庭作業が楽しめ、手軽な憩いの場所になっている。屋上からの見晴らは素晴らしく、明石海峡大橋や淡路島も一望でき、精神衛生に良い。1階には保育所を開設しており、日々の生活の中で「子どもとふれあう」機会が多く、『幼老一体型』の環境もこのホームの大きな特長である。評価訪問の時も、園児達が手づくりのおやつを利用者にプレゼントする、微笑ましい光景を目にした。ボランティアによる園芸サークル、ヨガ健康体操などの活動もほぼ毎月開催されている。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	①浴室や更衣室、部屋トイレの主要部に手すりを追加設置した。②カンファレンスを毎月実施するようになった。③内部研修を定期的に開催するようになった。④ヒヤリハット活動に力を入れるようにした。⑤プライバシー保護への取り組みを更に強化した。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
重点項目 ②	① ユニット毎に責任者和其他の職員で行なった後、これらの内容を事務長とユニット責任者で会議し、まとめた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
重点項目 ③	利用者家族、地域包括支援センター職員、ホーム代表者や職員が出席し、2～3か月に1度開催している。その日には家族会も開催されることから、会議への家族の出席も多くなる。家族に対して事前に議題に関するアンケートを実施し、実際に会議の場でそのことについて話し合っている。今後は、民生委員や地域住民の方にも出席してもらえるよう、法人評議員や地域包括支援センター職員の方々にも協力依頼をするなど、工夫をお願いする。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
重点項目 ④	③ 利用者の日々の様子は、毎月の「お便り」を通じ報告をしている。だいたいの家族は、週に1回程度ホームを訪れており、その際にホームへの要望を聴くことも多い。ご意見は真摯に受け止めホーム運営の改善に繋がっている。今以上に、家族が意見・要望を提示しやすくなる方法を検討中でもある。
	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目 ④	自治会に加入し、地域行事等にはできる限り参加をしている。地元消防団には災害発生時の協力を依頼している。区役所内のギャラリーを利用して、利用者や職員の作品を出展したりもし、ホームから地域へのアプローチを積極的に行なっている。



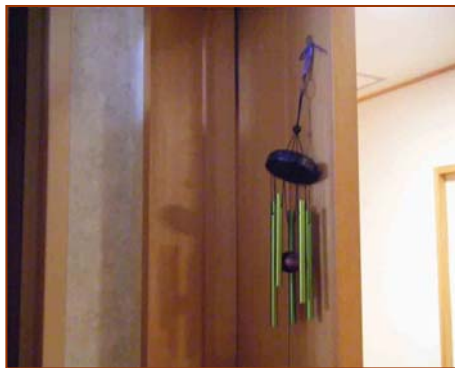
▲ 居心地の良い共用空間づくり
大きなテーブルを囲み、皆で食事を楽しむ…



▲ 入居者ごとにアルバムを作成



▲ プライバシー確保の徹底
浴室ドア開閉時の配慮としてカーテンを…



▲ 安全確保 (居室にベルを設置)



▲ 安全確保 (要所に手すりを設置)





▲ホーム外観（「幼・老一体」の福祉に取り組む…）

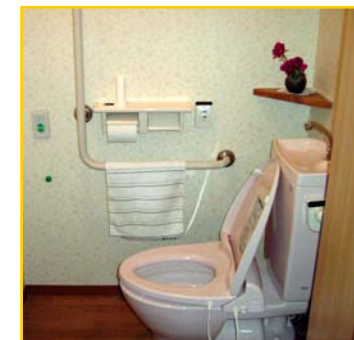


▲散歩に出掛ける「海(かい)神社」

▼リビング（温かな雰囲気作りがなされている）



▲居室フロア（エレベーター前にも、くつろぐスペースを確保）



▲各居室にもトイレを備える▲

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者それぞれの生活環境や生活状況を理解した上で、ホーム生活を在宅生活の延長と捉え、「察し合い、歓び合い、折れ合い、合わす」を運営理念とし、その精神のもと、介護の実践をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は常に運営理念を意識し、利用者それぞれの個性を引き出す取り組みを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、近隣神社のお祭りなどの地域行事等にはできる限り参加している。区役所内にあるギャラリーには利用者や職員の作品を出展し、その鑑賞に職員と利用者が一緒に出かけている。ホーム側から地域行事等に対して参加はあるが、地域側からホーム側への参加は少ない。	○	法人評議員である自治会長や女性部長にも協力を求め、施設を地域住民に開放し、地域の高齢者を含めた様々な人々の交流場となるよう、今後の取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全職員が理解し、前回の評価改善点については年度事業計画や目標に挙げ、改善に向け努力している。なお、今後は改善点について運営推進会議の議題としても取り上げ、家族等を交えて改善に向けた話し合いを行なう予定である。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	運営推進会議は、利用者家族、地域包括支援セン ター職員、ホーム代表、ホーム職員等で構成し、2～ 3か月に1度の頻度で開催している。会議には毎回、 約30名の出席者がある。会議終了後に家族会を行 なっていることもあり、会議に出席する家族は多い。 会議ではホームの現況報告、認知症に関する勉強 会、緊急時の対応方法などが話され、色々な意見交 換が活発にされている。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外に も行き来する機会をつくり、市町とともにサー ビスの質の向上に取り組んでいる	運営体制関係や運営上の疑問点などがある時には 事業所独自で判断をせず、行政に相談している。施 設長は認知症サポーター養成指導者(キャラバンメ イト)として市の介護保険課よりの依頼のもと、地域 での養成講座に講師として出向し、認知症ケアに関 する知識の周知浸透に尽力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、 金銭管理、職員の異動等について、家族等に定 期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者が、その人らしく生活している日々の様子を、 毎月の「お便り」として家族に近況報告をし、また家 族来訪時にもその都度近況報告をしている。家族会 では普段の様子を撮影したVTRを見てもらう取り組 みも行なっている。金銭報告も毎月欠かさず行えて いる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運 営に反映させている	家族に独自アンケートを採り、運営推進会議での議 題にも取り上げている。又、家族等来訪時には要望 や意見を伺い、改善策等を検討している。意見箱も 設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員に よる支援を受けられるように、異動や離職を必 要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利 用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を最小限に抑え、臨機応変な体制が取 れるよう、全職員が全利用者と顔なじみの関係を作 るため、敢えてユニット間異動をしている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催の研修をはじめ、市民救命士講習や成年後見人制度、その他の勉強会に参加している。音楽療法の学習などの日々のケアの実践に結びつく研修や勉強会についても、今後さらに取り組んでゆくことにしている。医療関係の研修は、多くない。	○	医療面に関する研修や勉強会の定期的な開催を望む。外部研修への参加や併設のデイサービスの看護師や協力医療機関の医師等に協力を依頼して、内部の学習会を開催する検討をされてはどうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム運営者等によって意見交換等をするにはあるが、担当職員等による交流の機会は少ない。ホーム職員による相互訪問等は行われていない。	○	行政や地域包括支援センターに協力を仰ぎ、近隣グループホームで構成される連絡協議会を立ち上げ、ネットワークを構築されることに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に1週間の体験入居期間を設け、ホームに慣れもらい、スムーズに入居できるようにしている。利用者の生活歴等は、本人や家族等から情報を収集して把握している。また、契約に関する書類も契約日の事前にお渡しして、一読をして頂ける期間を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	各場面において利用者の性格や状況に合わせた個別対応が実践されている。利用者からは、調理の方法や、風習、訓示等も教わる機会が多くある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とゆっくり話ができる時間をとり、本人の希望や意向を聴き、その時の思いを尊重できるような支援をしている。入居前後のアセスメントをはじめ、日々の生活における会話や態度も細かく記録をし、各職員が利用者の情報を共有している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活歴、生活環境、身体状況、希望を全職員が共有し、職員間によく話し合った上で、その人らしく生活できる介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別記録や連絡ノート等を参考にカンファレンスを行っている。必要に応じて、随時、介護計画を変更し対応している。状態変化のない場合でも、月に1回程度を目安に、カンファレンスを行なうことで、状況確認をしている。定期的な介護計画の見直しについてのチェックは、6か月に1回行なうことになっている。	○	介護計画にモニタリング結果を記録すること及び概ね3ヶ月に一度の介護計画見直し結果の家族等への開示が望ましい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常生活の中で保育園児等との関わりがある。また、1階に大ホールを備え、高齢者と幼児との合同イベントなども数多く開催している。ホーム2階のデイサービスとの関りも多い。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する主治医や病院への受診支援をしている。近隣の医療機関の場合は、職員が受診に同行することもあるが、遠方の医療機関の場合は家族に協力を頂いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に、ターミナルケアと医療体制についての施設方針の説明をしている。医療連携体制加算については、家族等に対してアンケートをとり家族会で検討して頂いた。協力医療機関には事業所方針を説明し協力を得ることができている。	○	終末期ケアについては、今後も定期的に全体的な話し合いを持ち、場合によっては個別に話し合う必要があると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各職員は常に利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねないような声かけを行なっている。また、浴室扉の内側にカーテンを取り付け、間違えて扉を開けた場合でも中が見えないような工夫をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各職員は、一人ひとりの行動パターンと生活背景を把握しており、本人の希望に沿った支援をしている。希望に沿うことが難しいような場合でも否定的な対応はせず代替案を提案し、できるだけ希望に沿えるようにしている。日常では、食器の片付けをする方もあれば、リビングで職員を交えてゲームをする方、TVを見ている方、居室でゆっくり過ごす方など思い思いに自由に過している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「食を楽しむ」を基本とした食事作りに力を入れており、季節感のあるカロリー計算されたメニューが提供されている。また、週に2回「自由献立」の日を設定し、入居者と共にメニューを考え、共に買物に行き、協働して作り、食べる喜びを感じる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴を基本とし、その日の体調に注意をしながら、その人の希望に応じた入浴支援を行なっている。入浴拒否があるような場合でも、時間をずらして再度声かけをするなどの工夫も見られる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1階に保育所があり、園児達と触れ合う機会が多い。園児達の元気が利用者の笑顔や元気を引き出しているのが印象的であった。ホーム内では、ボランティアによる園芸サークル、ヨガ健康体操、手話コーラス、フラワーアレンジメントなどの活動がほぼ毎月開催され、ハワイアンや歌謡ショーなども時々開催され、利用者も楽しみにしている。	○	園児との触れ合い、種々のボランティアによるサークル活動等は利用者の元気を引き出しており、今後も継続的に行なって欲しい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調や天候、職員の配置状況等を考慮し、ADLの高い方は散歩や買物に毎日のように出かけている。ADLの低い方については、職員が介助しながらできるだけ外出するようにしている。ホームの隣が神社で、近くには商店がたくさんあるため、日常的な散歩には好都合である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームを出たすぐ南には交通量の多い国道2号線が走っている。安全確保のため玄関については日中でも施錠している。居室は、本人が内側から自由に鍵をかけることができ、今までの生活習慣から就寝時に鍵を掛ける利用者もいる。職員の巡回時には、外から開錠が出来るようになっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時対応マニュアルを整備し、全ての職員が災害時の対応方法を認識している。家族会の意見として避難要領について説明を求められたこともあり、災害時対応マニュアルを見直し、危機管理マニュアルとして再整備した。年に2回の訓練を行なうとともに近隣の消防団にも協力を依頼している。	○	家族等に対し、再整備された危機管理マニュアル(抜粋)を配布されることが望ましい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設するデイサービスの管理栄養士を中心にカロリー計算が行なわれている。水分や食事の摂取量が安定していない利用者や医師による指示のある利用者については、チェック表によって管理している。また、毎月、管理栄養士、調理師、介護職員等で給食会議を開催し、メニュー等の検討をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や各ユニットの入口は、季節の絵画や粘土細工や小物、花が飾られ、明るい雰囲気になっている。フロアには利用者の作品や写真などを掲示している。馴染みのある歌や音楽が流れ、居心地良くゆったりと落ち着ける場所作りが工夫されている。リビングには食卓の他、一角に炬燵やソファを設置し、利用者それぞれの性格や習慣、行動パターンによって、思い思いの場所で過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者自身が好んで使っていた物や、自宅で使用していた馴染みのある家具等を持ち込んでもらえるよう、ご家族に協力を頂いている。ご家族のお写真や思い出の品や作品を職員や来訪者に見せて下さり、ご自身の子育てや仕事をしていた時期の思い出話などをして下さる利用者も多い。		

※  は、重点項目。